

いつおう
逸翁美術館

(大阪府池田市)

みゅ〜
ザ・見遊じあむ

27

旧小林一三邸を利用した逸翁美術館



ミュージアムメモ
▶所在地/〒563-0053 池田市建石町7-17
▶入館料/一般700円、大・高校生500円、
中・小学生200円▶開館時間/午前10時〜
午後5時(入館は午後4時30分まで)▶休館
日/毎週月曜日、年末年始、展示替え期間
▶交通/阪急宝塚線池田駅から徒歩10分▶
問い合わせ/☎072-751-3865

逸翁とは一代で阪急グル
ープを築いた小林一三の雅
号で、この美術館は、実業家
であると同時に茶人、芸術
に造詣の深かった小林一三
の収集したコレクションを
保存・展示しています。美術
館の建物は1936年(昭和
11)に建てられた小林一三
邸です。美術館としてオー

知られています。戦前は商
工大臣もつとめました。
美術館は堂々たる門構え
の入口から、和洋折衷の旧
宅そのままの本館と没後に
増築された別館がありま
す。収蔵の美術品は重要文
化財15点を含め、約500
0点にものぼるといわれて
います。中世から近世にか

阪急グループの創始者

小林一三のコレクションを一堂に

プンしたのは1957年で
今年ちょうど開館50年。
小林一三は1874年
(明治6)、山梨県韮崎市生
まれ、1月3日に生まれた
ことから一三と名づけられ
ました。明治、大正、昭和
の三代にわたって実業家と
して、阪急、東宝を育て、
宝塚歌劇を創設したこと

けての美術品が豊富で、
「豊臣秀吉画像」(狩野光信
筆)、「奥の細道画巻」(与謝
蕪村筆)、「白梅図屏風」(呉
春筆)などの作品がよく知
られています。1月12日か
ら3月2日まで「蕪村・呉
春展」を開催。その後は20
09年秋の新美術館のオー
プンまで休館となります。

『椿三十郎』



黒沢明の名作を
45年ぶりにリニユーアル

「椿三十郎」といえば、巨
匠・黒沢明監督の代表作のひ
とつです。1962年に公開
されたこの作品は三船敏郎の
キャラクターが冴えた日本映
画の逸品です。今回、脚本に
はまったく手をいれずに、前
作に忠実に、現代の監督と俳
優たちで作りました。
椿三十郎は腕の立つ素浪
人。外見は、不精ヒゲをはや
したみずばらしい身なり。で
すが、独特のユーモアと機転
で人を煙に巻き、勇気と知恵
で度重なる危機を乗り越えて
いきます。必殺の剣とワザで
相手を倒し、弱者を助けるや

さしい浪人です。

ある夜、城下町のはず
れのお堂のなかで、9人の若
侍たちが密議をしています。
藩の次席家老と大目付一
派による汚職を摘発しようと
していたのでした。そのと
き、たまたま密議を耳にした
素浪人・椿三十郎は血気には
やる若侍たちをいさめなが
ら、冷静な立場で状況を見極
め、アドバイスをします。そ
して、家老をなきものにしよ
うとする次席家老と大目付一
派との争いに首をつっこむは
めになった椿三十郎は、軍師
のように、つぎつぎと若侍た
ちに加勢していくので

したが、相手側には室
戸半兵衛というすご腕
のサムライがいまし
た。見どころはたくさ
んありますが、一番の
話題はやはりラストの
椿三十郎と室戸半兵衛
の真剣勝負でしょう。
ところで、『椿三十
郎』の原作は、山本周五
郎の『日平平安』。黒沢
明の『椿三十郎』もぜひ
この機会にビデオでも
DVDでも観てはいか
が。

このシネマ ガラエイガ

大阪の戦跡を歩く

第26歩

「峠三吉」
顕彰詩碑

(豊中市)

原爆詩人の
生誕地に建つ



豊中市岡町図書館の中に
ある峠三吉の顕彰詩碑

峠三吉(とうげ・さんきち)は「ちち
をかえせ はをかえせ としよりを
かえせ こどもをかえせ」の原爆詩で
知られる詩人です。

1917年(大正6)豊中市岡町で生まれ
ました。病弱で、生まれてすぐに広島
に転居。青年期を文学に情熱を燃やす
なか、1945年8月6日、アメリカの広
島への原爆投下で被爆。1953年3月10

日、36歳で永眠。

1995年10月15日、豊中市は生誕の場
所に近い岡町図書館の一角に「峠三吉」
顕彰詩碑を設置しました。碑に書かれ
ている詩は、もちろん冒頭の詩です。

また、豊中市は「非核平和都市宣
言」20年を記念して、市役所庁舎の敷
地内に、広島からはアオギリ、長崎か
らはクスノキの被爆2世の植樹をして
います。

撰津
河内
和泉
三國誌
おおさか

真田幸村と大阪冬の陣

27
(大阪市
天王寺区)

大阪市天王寺区にある真田山は、山というほ
どの高さはありませんが標高10〜15メートルの
丘陵地で、現在は真田山公園になっています。
真田山の名前は豊臣時代の武将・真田幸村にち
なんでいます。

真田山の近くにある三光神社には鎧・兜に身
を固めた真田幸村の立派な銅像があります。銅
像の後方には、大きな石で固められた洞窟に鉄
の格子がはめ込まれて、真田家の家紋「六文
銭」が彫られています。大阪冬の陣のときに作
られた地下道と伝えられている「真田の抜け
穴」です。

1600年の関が原の戦いのあと、勝って天
下を手中に収めた徳川家康は、1614年12
月、豊臣秀頼の大坂城を約20万の軍で完全に包
囲し、家康も茶臼山に本陣を構えました。大阪



三光神社の境内にある真田幸村の銅像

冬の陣です。豊臣方について大坂城に入った真
田幸村は出城の真田丸を拠点に徳川幕府軍を撃
退して奮戦しました。徳川家康の本陣にあと一
歩のところまで追いつめた幸村の活躍は、後世
になって天才軍師などの人物像が付加され、「真
田十勇士」などで映画、講談や小説でよく描か
れるようになりました。こうして大阪冬の陣は
双方とも疲弊したなかで和平が成立しました。
しかし、翌1615年の大阪夏の陣では、数
で勝る徳川軍の前に真田幸村も追い詰められ、
ついに四天王寺近くの安居神社(大阪市天王寺
区)の境内で、味方の傷ついた兵士を看病して
いたところを襲われて戦死。享年49歳でした。
幸村が討死した翌日、豊臣秀頼・淀殿の母は
大坂城内で自害し、豊臣秀吉の誇った大坂城も
炎上して落城し、ここに豊臣氏は滅びました。

12月といえば「忠臣蔵」の季節。吉良邸への討ち入りの12月14日は現在の暦では1月30日。標題の歌は、「忠臣蔵」の主人公ともいえる播州・赤穂藩の筆頭家老・大石内蔵助(おおいし・くらのすけ)の辞世の句として知られています。大石内蔵助にはもうひとつ、「極楽の道はひとすぢ君ともに阿弥陀をそへて四十八人」という歌も残されています。内蔵助は大石家嫡男の通称で、本名は大石良雄(おおいしよしお/よしたか)。1659年(万治2年)生まれ。身長は157センチ程度といわれています。切腹したのは1703年(元禄16年)2月3日、今の暦では3月19日のことでした。このとき、45歳。

あら楽し/思いは晴る/
身は捨つる/浮世の月に/
かかる雲なし
大石 内蔵助

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

植木枝盛(うえきえもり)。1857年(安政4年)1月20日〜1892年(明治25)1月23日没。明治時代の自由民権運動の理論的指導者。現在の高知県高知市出身。土佐藩士で、1875年に上京し板垣退助の書生となる。1877年、立志社に参加し、立志社建白書を起草。憲法私案の中ではもっとも民主的、急進的な内容といわれる『東洋大日本国憲法』を起草。高知で県会議員を務めた後、1890年、国会開設にあたり、高知県から第1回衆議院議員総選挙に立候補し当選。1892年の第2回衆議院議員総選挙を前に36歳で病死。著作に『民権自由論』『言論自由論』などがある。

未来がその胸中にある者、これ
を青年という。過去が胸中にあ
る者、これを老年という。
植木 枝盛